

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

業所番号	2192200026		
法人名	(株)共寿		
業所名	グループホーム千本松「福寿苑」やすらぎ		
所在地	岐阜県海津市福江639-1		
評価作成日	2019年10月30日	評価結果市町村受理日	2020年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kani=true&j_gyosyoCd=2192200026-008&servi_cdCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	2019年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、散歩やレクリエーションでカラオケ、ゲーム、運動などしています。外出支援では皆さんの希望により、喫茶店や公園など行っています。職員が一丸となって創意工夫し整備された空間と笑いの絶えない空間を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に警察署、消防署等多くの参加者があり、地元のボランティアの来所が数多くある。地域との交流を大切にしている。レクリエーションを担当制にして季節のイベント、たこ焼きづくり、サツマイモ焼きなど、豊富なアイデアで利用者が楽しみにしている。利用者一人ひとりの状態や思いを受け止め、その人に応じた支援をしようと心がけている。自宅と変わらぬようなくつろぎ、安心できる空間づくりを目指している。利用者に生き活きた表情があり、職員も生きがいを持って仕事に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、職員の心得を制定している。月一度の職員会議で、理念、心得を唱和し、理念の共有及び介護に対する意識の向上に努めている。	地域と関わりながら、その人らしく生き抜く支援を念頭に置き、自分の家と同じように、家庭的な雰囲気でも過ごせるよう取り組んでいる。全体会議で理念を振りかえりケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントへの積極的な参加や保育園児の訪問、地元ボランティア来苑など交流を深めている。	小学校の運動会、地域の夏祭りに参加している。歌、コーラス、踊り等地域のボランティアや保育園児の訪問等もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設主催の運営推進会議に、自治会長、民生委員、消防本部、警察駐在所の方々に参加いただき、日常の状況や運営方針を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政をはじめ警察、消防、自治会長、民生委員、ご家族に参加していただき、活動報告、意見交換を行うことでサービスの向上に努めている、また議事録をご家族様に発送している。	隣接の同法人の事業所と合同で運営推進会議を行っている。消火栓の点検を地域住民と合同で行ってはどうかと提案があり、事業所も参加した。地域住民の困難事例の相談も会議で話し合った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2カ月毎の海津市介護支援専門員連絡会議で意見交換している。	集団生活になじめない利用者、家族の対応に苦慮している事例について行政に相談し助言をもらい改善している。キャラバンメイトに参加するなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を通じ、身体拘束に対しては職員一同理解している。現場でも確認し事故が無いよう見守っている。	身体拘束委員会で話し合っている。身体拘束となる声かけについても話し合い、不適切と思われる時は互いに注意している。センサーマットを使用しているが、徐々に廃止に向け取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、勉強会に必ず取り入れ虐待が見過されることがないように職員間で話し合いをしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会のテーマに取り入れている。利用者様が自立支援事業や成年後継人制度を利用されているため大変勉強になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、入所前にご家族に十分な時間を用意して頂き説明している。疑問点の確認も行い、ご納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会で、ご意見をいただいたり、利用者様アンケートを実施している。ご家族の面会時は積極的に声掛けし、意見や要望に答えている。	利用者アンケートを行い家族との食事会の希望があり、年二回実践している。家族から運営推進会議の開催日を参加しやすい日にしてほしい希望もあり、変更した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議で意見交換の時間を設けている。管理者による面談を年2回実施している。	職員の勤務時間の要望を聞き入れ、働きやすい環境に取り組んでいる。利用者のリビングに座る席に配慮できるよう、リビングテーブル増設の意見があり、購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員がやりがいを持って働ける職場をめざし、一人一人の生活環境を理解し、勤務体制を整え、介護職としてのキャリアアップできるよう指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会を取り入れ、職員に応じた研修を受講している。またその研修結果を職員会議で報告、話し合い、全職員が共有できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月各管理者の集いに外部講師による開催や介護支援員はケアマネ会議の参加により同業者としての情報交換をしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の事前面談を重視し、利用者様の今までの生活歴を理解した上で、また、ご本人にも理解を得て入所していただくよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までのご苦労を労うとともに入所にあたり本人様とご家族が円滑な関わりを継続できるよう援助していきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族が入所にあたり、不安や希望など言い易い環境を整え、本人様やご家族が納得されるようなプランの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の一人ひとりの今までの生活や経験を知ることで、その時々々の知恵をいただき、お互いに支え合う関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報を共有し、一緒に支え合う関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の電話利用については、事務所にて対応できるようにしている。また、毎月習字教室を実施し、文字に親しみを持たれるよう対応している。	馴染みの美容院、喫茶店に継続して行けるよう支援している。同法人の事業所の合同運動会で顔見知りの利用者に出会い、その後、職員の介助により行き来している利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士共通の会話が弾む事ができるように、職員は状況により声掛けや情報提供ができるように心がけている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されたご家族様には、お手紙を出したり、また長期入院された利用者様には、病院に伺いご様子の確認をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントにより生活や性格を知ること。また、入所されてからの様子を見ながら、できる限り今までの生活ができるよう周囲の環境を整え支援している。	日々の生活の中で利用者の思いや意向を聞いている。家族から『本人が楽しい生活をして欲しい』思いがあり、職員は利用者の望む環境を理解し、利用者のペースを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やアセスメントで本人様の生活歴を知るよう努めている。施設生活での声掛けや他の利用者との関わりを観察しながらその方らしい生活ができるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの生活の関わりの中で利用者様の状態を観察、把握し職員間で情報を共有し利用者様の支援にあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の今までのご苦勞を労うとともに入所にあたり本人様とご家族が円滑な関わりを継続できるよう援助していきたい。	家族、本人に生活の状況やケアの要望、意見を聞き介護計画を作成している。介護は担当制で毎月モニタリングを行っている。定期的に介護計画を見直し、身体状況に変化があれば、随時家族に確認し計画書を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の観察を記録に残し、変化がみられる時は、朝晩の申し送りの時に職員間で状況を共有するとともに、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所の際の状況は皆さんそれぞれ違うため、ご本人をはじめご家族の意向を確認しながら安心をいただけるような支援をしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人をはじめ、ご家族、地域関係者が参加する運営推進会議で地域資源の活用等の意見や助言をいただき、利用者様の日々の生活に反映している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に今までのかかりつけ医での継続診断か施設協力医療機関をお伝えしご本人、家族に選択して頂いている。突発的な状況においても家族と相談し対応している。	かかりつけ医の受診は、家族が同行している。受診の際、事業所での様子を記載した連絡ノートを家族に渡している。医師のコメントが記載され医師と事業所間において適切な情報伝達がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中での変化や気がかりを直接伝えたり、申し送りやノートを共有している。看護師は職員からの情報をもとに状況に応じかかりつけ医や専門医の受診へつなげるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、入所中のサマリーで医療機関に伝えたり2日に一度は見舞うようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化の時には、早い段階でご家族と今後について話し合い意思確認を行うようしている。また家族の意向を医師に相談し施設で提供するケアの方向性についても安心して最期を迎えられるよう体制作りに取り組んでいる。	契約時に事業所の方針を説明している。状態の変化毎に、家族の希望を再確認し、医師、家族、職員と話し合い、看取りに取り組んでいる。職員が不安にならないように看護師から看取りのケアを伝達している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態に応じ職員が初期対応できるよう勉強会や消防署職員からの救命講習を行っている。看護師不在の時は、電話で対応を相談することもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議では、行政をはじめ警察、消防、自治会長、民生委員、ご家族に参加していただき、活動報告、意見交換を行うことでサービスの向上に努めている、また議事録をご家族様に発送している。	運営推進会議の後に避難訓練を行い、参加者も一緒に消火器の使い方、火災時の通報方法も学んでいる。水害対策の避難訓練として、移動訓練、救命講習、炊き出し訓練、非常食の試食を実践している。非常食、おむつなどの備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の情報収集や外部との連携の際には情報の個別性や守秘義務を十分に理解しながら責任ある対応に努めている。	他の人に解らないようにトイレ誘導している。許可を得た利用者の写真のみ掲示し、写真を送る際は、他利用者が写っているところを、切り取っている。日常会話に注意しているが、馴れ合いの言葉になってしまうことがある。	利用者に向けて発した言葉が、利用者の誇りを傷つけたり、尊厳を無視した対応になっていないか、言葉かけや対応について話し合っ欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の表情や変化に気づくように努めている。思いや希望を素直に話されるようコミュニケーションを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるものの、時間等にこだわりを持つことの無いようできるだけ利用者の意向に沿うようスケジュールをとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の思いで美容院を予約したり、その方の生活習慣に合わせたおしゃれを楽しめるようまた家族の方とも連絡しながら服装選び等していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜等の下処理には時間をかけ美味しく食べていただくようまた職員も同じテーブルについて楽しい時間を共有できるよう心がけている。	利用者と一緒に下ごしらえをしている。プランターで育てた野菜を利用者と収穫し食材にしている。節分の恵方巻は、食べやすくするため海苔を卵焼きに代用している。誕生日にケーキ、運動会に弁当を作り食事が楽しみになるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕の水分補給の記録により不足等がみられる時は栄養補助食品やスポーツドリンク等を摂って頂くようしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方にはその都度、口腔ケアの声掛けを実施されている。介助の必要の方には居室にて職員がその方に合った支援をしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子から敏感に察知したり羞恥心に配慮しながら、身体機能に応じて支援を行っている。紙パンツ、パット類もその方に合わせ随時使用している。	定期的に声かけ、トイレ誘導している。体位交換が必要な利用者を、日中は、二人介助でトイレ排泄を支援している。一人ひとりに適した排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響から飲食物の工夫や腸の働きを良くするように外出や散歩に積極的にお誘いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の体調やお気持ちに配慮しました介護状況に合わせて特浴や個浴にと支援している。	一般の風呂が不安定な利用者は、機械浴にて安全な入浴を支援している。入浴を好まない時は、人を変えたり、入浴の時間を変えたりして支援している。入浴日以外の希望時には足浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの利用者様の状態で自由に居室で休まれたりリビングで過ごされたりと就寝時間を決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の確認は複数スタッフで行い誤薬が無いよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク係を担当制にし、外出支援、日々の楽しみかたを考え行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気や利用者様の希望により散歩に出かけたり、テラスで日光浴をしたりしている。年間行事計画を立て、花見、地域の祭り等に参加している。外食、ドライブ等外出支援をしている。	近所のお寺への初詣、木曾三川公園のチューリップ祭り、水郷パークの紅葉見物などに出かけ季節を楽しんでいる。なじみの喫茶店、牛丼店、回転寿司店にも出かけている。隣接の同法人の事業所に出かけ交流を楽しんでいる。	

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には利用者様の金銭所持はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に自ら電話できるようにしている。また手紙やはがきの返信など、望まれば応援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけている。	利用者、職員が作成した季節の作品を玄関先に飾っている。テラスでプランターで野菜作りをしたり、お茶を飲んだりして戸外の雰囲気を楽しんでいる。また、テラスに物干し台を置き、利用者も洗濯物を干したり畳むなど手伝うこともある。乾燥を防ぐため加湿器を使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれご自分の居室にてお昼寝されたり、ラジオを聴かれたりゆっくりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者様に合わせベット等家具の配置をかえたりしている。	テレビ、ラジオを持参し、好きな番組を見るなどゆったり過ごせるようにしている。壁には、本人が作成した習字やお祝いのメッセージ、家族との思い出の写真を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは手を出しすぎず、声掛けや見守りにて安全を確認しつつ本人様のできることをやっていたい。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	(株)共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」 なごみ		
所在地	岐阜県海津市福江639-1		
自己評価作成日	2019年10月30日	評価結果市町村受理日	2020年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti%on%kouhou%detail%022%kani%true&J%gvsyo%Q%2192200026%008%Sevi%ce%Q%320&T%pe=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	2019年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、職員の心得を制定している。月一度の職員会議で、理念、心得を唱和し、理念の共有及び介護に対する意識の向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントへの積極的な参加や保育園児の訪問、地元ボランティア来苑など交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設主催の運営推進会議に、自治会長、民生委員、消防本部、警察駐在所の方々に参加いただき、日常の状況や運営方針を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政をはじめ警察、消防、自治会長、民生委員、ご家族に参加していただき、活動報告、意見交換を行うことでサービスの向上に努めている、また議事録をご家族様に発送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2カ月毎の海津市介護支援専門員連絡会議で意見交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を通じ、身体拘束に対しては職員一同理解している。現場でも確認し事故が無いよう見守っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、勉強会に必ず取り入れ虐待が見過されることがないように職員間で話し合いをしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会のテーマに取り入れている。利用者様が自立支援事業や青年後継人制度を利用されているため大変勉強になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、入所前にご家族に十分な時間を用意して頂き説明している。疑問点の確認も行い、ご納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会で、ご意見をいただいたり、利用者様アンケートを実施している。ご家族の面会時は積極的に声掛けし、意見や要望に応えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議で意見交換の時間を設けている。管理者による面談を年2回実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員がやりがいを持って働ける職場をめざし、一人一人の生活環境を理解し、勤務体制を整え、介護職としてのキャリアアップできるよう指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会を取り入れ、職員に応じた研修を受講している。またその研修結果を職員会議で報告、話し合い、全職員が共有できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月各管理者の集いに外部講師による開催や介護支援員はケアマネ会議の参加により同業者としての情報交換をしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の事前面談を重視し、利用者様の今までの生活歴を理解した上で、また、ご本人にも理解を得て入所していただくよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までのご苦労を労うとともに入所にあたり本人様とご家族が円滑な関わりを継続できるよう援助していきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族が入所にあたり、不安や希望など言い易い環境を整え、本人様やご家族が納得されるようなプランの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の一人ひとりの今までの生活や経験を知ることで、その時々のお知恵をいただき、お互いに支え合う関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し、一緒に支え合う関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の電話利用については、事務所にて対応できるようにしている。また、毎月習字教室を実施し、文字に親しみを持たれるよう対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士共通の会話が弾む事ができるように、職員は状況により声掛けや情報提供ができるように心がけている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されたご家族様には、お手紙を出したり、また長期入院された利用者様には、病院に伺いご様子の確認をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントにより生活や性格を知ること。また、入所されてからの様子を見ながら、できる限り今までの生活ができるよう周囲の環境を整え支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やアセスメントで本人様の生活歴を知るよう努めている。施設生活での声掛けや他の利用者との関わりを観察しながらその方らしい生活ができるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの生活の関わりの中で利用者様の状態を観察、把握し職員間で情報を共有し利用者様の支援にあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の今までのご苦勞を労うとともに入所にあたり本人様とご家族が円滑な関わりを継続できるよう援助していきたい。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の観察を記録に残し、変化がみられる時は、朝晩の申し送りの時に職員間で状況を共有するとともに、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所の際の状況は皆さんそれぞれ違うため、ご本人をはじめご家族の意向を確認しながら安心をいただけるような支援をしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人をはじめ、ご家族、地域関係者が参加する運営推進会議で地域資源の活用等の意見や助言をいただき、利用者様の日々の生活に反映している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に今までのかかりつけ医での継続診断か施設協力医療機関をお伝えしご本人、家族に選択して頂いている。突発的な状況においても		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中での変化や気がかりを直接伝えたり、申し送りやノートを共有している。看護師は職員からの情報をもとに状況に応じかかりつけ医や専門医の受診へつなげるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、入所中のサマリーで医療機関に伝えたり、2日に一度は見舞うようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化の時には、早い段階でご家族と今後について話し合い意思確認を行うようしている。また家族の意向を医師に相談し施設で提供するケアの方向性についても安心した最期が迎えられよう体制作りに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態に応じ職員が初期対応できるよう勉強会や消防署職員からの救命講習を行っている。看護師不在の時は、電話で対応を相談することもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署に運営推進会議の参加をいただきご意見をいただくとともに昼、夜間を想定した、火災通報訓練、避難訓練、消火訓練、職員の非常召集訓練を実施している。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の情報収集や外部との連携の際には情報の個別性や守秘義務を十分に理解しながら責任ある対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の表情や変化に気づくように努めている。思いや希望を素直に話されるようコミュニケーションを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるものの、時間等にこだわりを持つことの無いようできるだけ利用者の意向に沿うようスケジュールをとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の思いで美容院を予約したり、その方の生活習慣に合わせたおしゃれを楽しめるようまた家族の方とも連絡しながら服装選び等していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜等の下処理には時間をかけ美味しく食べていただくようまた職員も同じテーブルについて楽しい時間を共有できるよう心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕の水分補給の記録により不足等がみられる時は栄養補助食品やスポーツドリンク等を摂って頂くようしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方にはその都度、口腔ケアの声掛けを実施されている。介助の必要の方には居室にて職員がその方に合った支援をしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子から敏感に察知したり羞恥心に配慮しながら、身体機能に応じて支援を行っている。紙パンツ、パット類もその方に合わせ随時支給している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響から飲食物の工夫や腸の働きを良くするように外出や散歩に積極的にお誘いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の体調やお気持ちに配慮しました介護状況に合わせて特浴や個浴にと支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの利用者様の状態で自由に居室で休まれたりリビングで過ごされたりと就寝時間を決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の確認は複数スタッフで行い誤薬が無いよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク係を担当制にし、外出支援、日々の楽しみかたを考え行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気や利用者様の希望により散歩に出かけたり、テラスで日光浴をしたりしている。年間行事計画を立て、花見、地域の祭り等に参加している。外食、ドライブ等外出支援をしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には利用者様の金銭所持はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に自ら電話できるようにしている。また手紙やはがきの返信など、望まれば応援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれご自分の居室にてお昼寝されたり、ラジオを聴かれたりゆっくりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者様に合わせベット等家具の配置をかえたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは手を出しすぎず、声掛けや見守りにて安全を確認しつつ本人様のできることをやっただいている。		